令和3年度

農薬危害防止運動中央講習会

静岡県病害虫防除所

次　　第

①病害虫発生予察情報、農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 の紹介

②防除基準の主要改正事項について

③令和2年度の病害虫の発生状況

④農薬危害防止
　農薬登録における適用作物名に関する注意事項

①病害虫発生予察情報、農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 の紹介

- 病害虫の発生状況 を定期的調査
  - ◆農林水産大臣指定病害虫（18作物、77病害虫）
  - ◆本県の重要作物（25作物、131病害虫）

↓

- 発生状況、気象要因等から今後の発生予察

病害虫発生予察情報

静岡県病害虫防除所のホームページ

病害虫の発生状況など

ホームページから入手できる情報

1.　巡回調査結果等を基にした情報

・発生予察情報　(毎月最下旬に翌月の予報を発表)
・注意報・警報　(多発生・被害が予測される病害虫情報)
・特殊報　(県内で初発生の病害虫情報)
・技術情報　(今後注意が必要な病害虫情報)
・病害虫発生状況グラフ (主要病害虫の発生消長)

2.　トラップ・予察灯のデータを基にした情報

・害虫誘殺グラフ　(主要害虫のフェロモントラップ等での誘殺情報)
・防除時期予測　(ふ化時期等の防除適期の予測情報)

3.　農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準

病害虫発生予察と技術情報の提供事例

病害虫発生予察情報（６月予報）

令和３年５月26日
静岡県病害虫防除所長

1　予報概況

作物名	病害虫名	予報 （６月の県平均平年値）	予報の根拠
稲	葉いもち	発生量：やや少 （発病株率0.46%）	前年８月葉いもち発生量：やや少（－） 前年９月穂いもち発生量： 少（発生なし）（－） 置き苗いもち：発生なし（－） 気象予報：気　温：並～高い（±） 降水量：多い（＋）
	縞葉枯病 （ヒメトビウンカ）	縞葉枯病発生量：やや少 ヒメトビウンカ発生量：やや少 （発病株率0.03%）	前年８月縞葉枯病発生量：多（＋） 5月上中旬ヒメトビウンカ発生量： 水田畦畔：少（発生なし）（－） 気象予報：気　温：並～高い（＋） 降水量：多い（－）
	イネミズゾウムシ	発生量：やや多 （寄生株率10.0%）	前年６月発生量：多　（＋） ５月の予察灯誘殺数：やや多（＋） （ただし、西部：多(+)、中遠・志太：少(誘殺なし) 気象予報：気　温：並～高い（＋）
	イネドロオイムシ	発生量：やや少 （東部高冷地：寄生株率7.6%）	前年６月発生量：少（発生なし）（－） 気象予報：気　温：並～高い（＋）
	斑点米カメムシ類	発生量：やや少	５月上中旬発生量：少　（－） （ただし、ミナミアオカメムシは多） 気象予報：気　温：並～高い（＋） 降水量：多い（－）
ばれいしょ	疫病	発生量：やや多	５月中旬発生量：少　（－） 気象予報：気　温：並～高い（±） 降水量：多い（＋）
	ジャガイモガ	発生量：やや多	５月中旬発生量：多　（＋） 気象予報：気　温：並～高い（±） 降水量：多い（±）
温州みかん	チャノキイロ アザミウマ	発生量：やや少 （発生果率0.4%）	5月中旬発生量(茶)：やや少（－） 気象予報：気　温：並～高い（＋） 降水量：多い（－）
	ヤノネカイガラムシ	発生時期：早い 発生量：並 （寄生葉率0.1%）	５月上中旬発生量：並　（±） 気象予報：気　温：並～高い（＋） 降水量：多い（－）
	ミカンハダニ	発生量：やや少 （寄生葉率7.9%）	５月上中旬発生量：少　（－） 気象予報：気　温：並～高い（＋） 降水量：多い（±）
中晩柑類	かいよう病	発病度（葉）：並 （発病度0.47）	5月上中旬新梢発生量：少（発生なし）（－） 気象予報：気　温：並～高い（±） 降水量：多い（＋）

令和３年度　技術情報第３号
水稲　トビイロウンカ

令和３年６月10日
静岡県病害虫防除所長

> 水稲のトビイロウンカが平年よりも早く飛来しています。
> 今後の発生状況に留意し、適切な防除をお願いします。

1　発生状況

令和３年５月23日、県内４ヶ所（*）に設置している水稲予察灯のうち、磐田市加茂の水田の予察灯において、トビイロウンカ（図１）の初誘殺が確認された。その後、５月25日に磐田市富丘の畑に設置された予察灯、６月５日に上記水田の予察灯においても誘殺が確認された（いずれも各１頭）。本県での初誘殺は、平年（７月上旬頃）よりも１ヶ月以上早く、本虫による坪枯れ被害（図２）が多発した令和２年より約40日早い。

本年は、東海地方で５月16日頃に平年（６月６日頃）より21日早く梅雨入りした。このため、梅雨前線に伴う中国大陸からの下層ジェット気流に乗じたトビイロウンカの飛来が早まっている。気象庁の１か月予報（６月５日～７月４日）によると、向こう１ヶ月の気温は平年より高く、降水量は少ない予報で、梅雨明け後の気温が高く降水量が少ないと本虫の増殖が助長される。

＊ 県内の水稲予察灯設置地点：　島田市中河、磐田市加茂、磐田市五十子、浜松市西区（計４ヶ所）

2　防除対策

（１）今後、病害虫防除所から示す発生状況等の情報に留意する。
（病害虫防除所ホームページ内　最新のウンカ類誘殺グラフURL：
http://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujohp/GRAPH/PDF/sejirounka.pdf）
JPPネット有効積算温度シミュレーションによると、５月23日の飛来を起点とした第１世代若齢幼虫の発生時期は６月中～下旬頃と予測される（磐田市）。

（２）今後移植を行う場合は、本虫に効果の高い薬剤（トリフルメゾピリム等）の含まれる育苗箱施用剤を使用する。移植を終了したほ場で本虫に効果の高い薬剤の含まれる育苗箱施用剤を使用していない場合は、発生状況を確認し、発生を確認した場合は同時期における他のウンカ類の防除と併せて速やかに本田防除を行う。防除に当たっては、トビイロウンカの生息部位である株元に、薬剤が十分到達するように留意する。

（３）薬剤等の詳細については、静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準（http://www.s-boujo.jp）を確認する。また、不明な点は病害虫防除所及び農林事務所等の指導機関に問い合わせる。

図１　トビイロウンカ
（左：長翅型成虫、中央：短翅型成虫（雌）右：幼虫）

図２　トビイロウンカによる
収穫期の坪枯れ被害

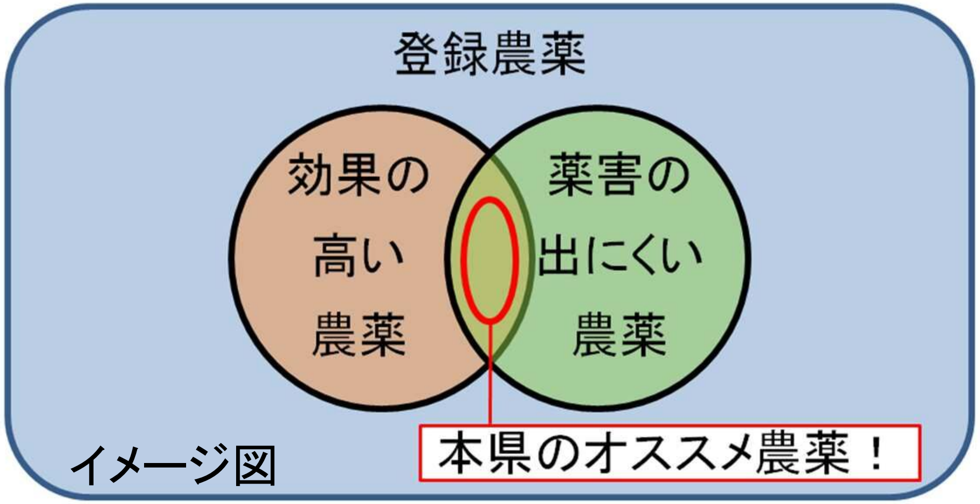
農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準（以下、防除基準）とは

・安全で
・環境にやさしく
・持続的で
・効果的な

病害虫雑草防除の推進のため、県が作成している情報

防除基準の内容の一例（農薬検索システム）

登録農薬の中から、（薬剤抵抗性病害虫など）静岡県の状況に即して選んだオススメの農薬を検索できる



静岡県病害虫防除所のホームページ（防除基準）

スマホ対応になった病害虫防除基準掲載サイトの紹介

令和3年度農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準
令和3年度版での主な変更点について①

コナガ

- 初期ジアミド剤の削除　抵抗性の発達

農薬名	害虫名	作物名
プレバソンフロアブル5	コナガ	キャベツ、ハクサイ、カブ、カリフラワー、ブロッコリー、タアサイ、非結球あぶらな科葉菜類(タアサイ、ひろしまな、なばな類を除く)
フェニックス顆粒水和剤		キャベツ、ハクサイ、ダイコン、カリフラワー、ブロッコリー、なばな類

令和3年度農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準
令和3年度版での主な変更点について②

- 県内での初発生（特殊報）

  ■サツマイモ基腐病

  ■セルリー萎縮炭疽病

防除基準への追加

令和3年度農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 令和3年度版での主な変更点について③

■ミツバチ・マルハナバチへの影響日数の改訂

各農薬メーカーへの調査を行い、最新の情報へ見直ししました。

ミツバチに対する影響日数　防除基準掲載農薬（イチゴ）

※影響日数は、環境条件により変動するので注意する。
「影響なし」：散布後、当日放飼が可能　「１日」：散布後、翌日に放飼　「不明」：影響日数が不明

No.	農薬名	ミツバチ	No.	農薬名	ミツバチ	No.	農薬名	ミツバチ
1	ＩＣボルドー６６Ｄ	影響なし	36	スミレックス水和剤	１日	71	プレバソンフロアブル５	１日
2	アーデント水和剤	２日	37	セイビアーフロアブル20	影響なし	72	プロパティフロアブル	不明
3	アグリメック	14日	38	ダイアジノンＳＬゾル	不明	73	ベストガード水溶剤	６日
4	アタブロン乳剤	不明	39	ダニオーテフロアブル	影響なし	74	ベストガード粒剤	45日以上
5	アドマイヤー１粒剤	30日	40	ダニコングフロアブル	１日	75	ベリマークＳＣ	１日
6	アニキ乳剤	１日	41	ダニサラバフロアブル	１日	76	ベルクートフロアブル	影響なし
7	アファーム乳剤	２日	42	ダニトロンフロアブル	１日	77	ベンレート水和剤	１日
8	アフェットフロアブル	影響なし	43	タフパール	不明	78	ポリオキシンＡＬ水溶剤	１日
9	アミスター20フロアブル	影響なし	44	チェス顆粒水和剤	影響なし	79	マイトクリーン	不明
10	アントラコール顆粒水和剤	不明	45	ディアナＳＣ	３日	80	マイトコーネフロアブル	１日
11	イオウフロアブル	１日	46	デランフロアブル	１日	81	マッチ乳剤	１日
12	硫黄粒剤	不明	47	ドキリンフロアブル	１日	82	マトリックフロアブル	不明
13	ウララＤＦ	影響なし	48	トップジンＭ水和剤	影響なし	83	マラソン乳剤	10日

３．令和2年度の病害虫の発生状況

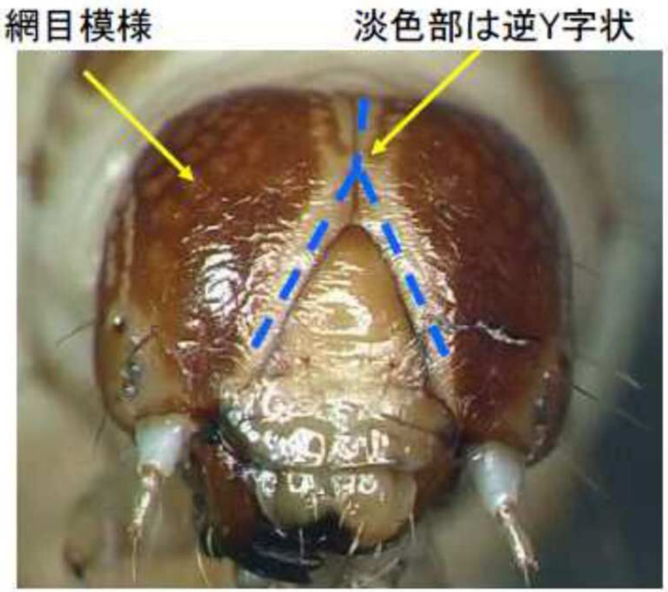
１．特殊報

・県内で新たな病害虫の発生を確認した場合に発表

・令和２年７月「ツマジロクサヨウ」 飼料用トウモロコシ
10月「シイノコキクイムシ」 洋ラン
11月「オリーブカタカイガラムシ」 オリーブ
12月「サツマイモ基腐病」 かんしょ
令和３年１月「セルリー萎縮炭疽病」 セルリー
１月「ヨコバイ科の一種」 ローズマリー
３月「オリーブ立枯病」オリーブ

令和2年度特殊報第1号　ツマジロクサヨトウ

- 41道県で確認
- 国内の被害作物：飼料用トウモロコシ、緑肥用ソルガム、飼料用エンバク、スィートコーン、サトウキビ



植物防疫所原図

令和2年度特殊報第2号
シイノコキクイムシ
（洋ラン）

・野外では各種広葉樹を加害
・愛知県につぎ２例目
・成虫は孔道内にカビ（アンブロシア菌）を持ち込み、ふ化した幼虫は、増殖したカビを食べて生育する。

写真１ バルブに開いた孔

写真２ シイノコキクイムシ成虫
（体長約1.7mm）

写真３ バルブ内で増殖したカビ

令和2年度特殊報第3号
オリーブカタカイガラムシ
（オリーブ）

・熱帯・亜熱帯に広く分布
・柑橘類、マンゴーなど様々な樹木類に寄生
・多発すると排泄液（甘露）によりすす病を誘発

写真１ 未成熟成虫
（扁平で淡褐色、背面に「工」字形の隆起）

写真２ オリーブカタカイガラムシが寄生した枝

写真３ すす病が誘発された枝、葉、果実

令和2年度特殊報第4号
サツマイモ基腐病
（かんしょ）

・平成30年に沖縄で発生。その後九州各地で発生。
・ほ場での発病は株が黄化、生育不良となり、株の基部が黒～暗褐色になる。

写真１　苗床から堀上げた罹病塊根
種イモの腐敗と苗基部の黒変

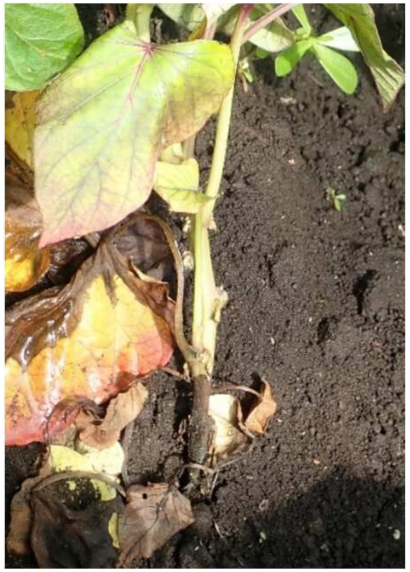


写真２　株基部の黒～暗褐変

写真３　生育不良株

写真４　腐敗塊根（品種：べにはるか）なり首側からの腐敗

※写真１～３：農研機構生研支援センターイノベーション創出強化研究推進事業（01020C）にて作成したマニュアル「サツマイモ基腐病の発生生態と防除対策」 より引用

令和2年度特殊報第5号
セルリー萎縮炭疽病
（セルリー）

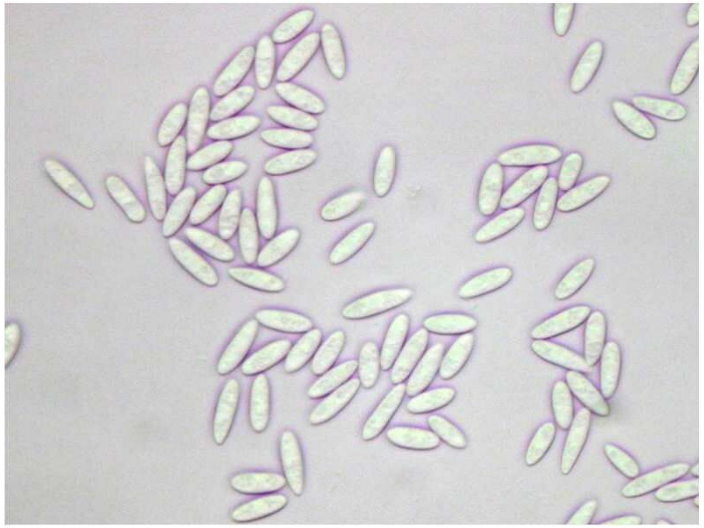


写真１　セルリー萎縮炭疽病菌分生子

・長野県で2011年に報告。本県は2例目。
・本病は芯葉に細かいえそ斑点を多数形成し、併せて、葉が奇形となったり、カールする。

写真２　細かいえそ斑点が多数形成され、萎縮する芯葉

写真３　葉柄のえそ斑

令和2年度特殊報第6号
ヨコバイ科の一種(和名なし)
Eupteryx decemnotata (Rey)
(ローズマリー)

- 平成28年に千葉県で初発生が確認され、その後数県で発生を確認。
- シソ科ハーブ類を加害。ローズマリーでは、本種の吸汁により葉表にかすり状の小斑点が生じる。
- 被害が進むと葉が黄化し、最終的に落葉する。

成虫

成虫頭部

ローズマリーでの被害の様子

令和2年度特殊報第7号

オリーブ立枯病（オリーブ）

・罹病樹では葉枯れや落葉、果実の萎凋が生じ、その後、枝や樹木全体が枯死する。
・症状の出ている枝や幹を切断すると木部が褐色に変色している。
・トマトなどの青枯病と同じ病原細菌

オリーブ枝からの菌泥漏出

枯死症状を示すオリーブ

葉枯れ、果実の萎凋症状

変色したオリーブの枝断面

２．多発生・被害が予測された病害虫（注意報）

・警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予想され、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表

令和２年９月 「水稲 トビイロウンカ」

11月 「いちご炭疽病」

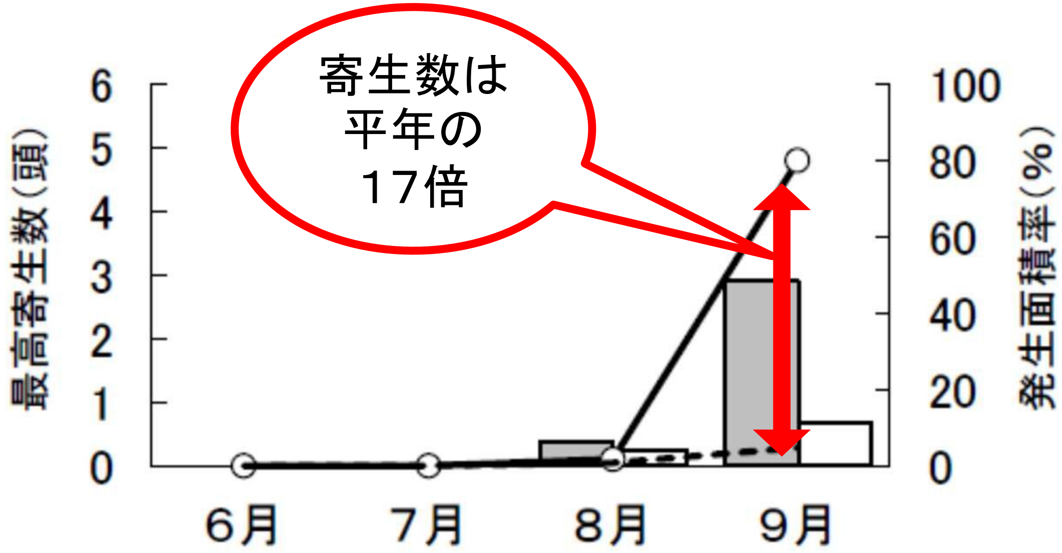
令和2年度注意報

水稲（トビイロウンカ）

・中国、東南アジアから飛来
・８月の高温・晴天により急増
・西日本中心に大発生
・本年も5月に初誘殺を確認

トビイロウンカが多数寄生した
稲の株元の様子

トビイロウンカによる坪枯れ



令和2年度トビイロウンカ巡回調査データ

本年度誘殺情報は下記URLを参照してください。
https://www.agri-exp.pref.shizuoka.jp/boujo/boujohp/GRAPH/PDF/sejirounka.pdf

令和2年度注意報・技術情報
イチゴ（炭疽病）

- ７月の長雨、８月の高温により、育苗圃場で大発生
- 苗不足の発生
- 定植後も発生
- 本年も、昨年多発の影響から、ほ場内菌密度が高いと予想されるので注意する。

図１　萎凋症状を示した罹病株

図２　葉と葉柄に発生した病斑

２．注意が必要な病害虫（技術情報）

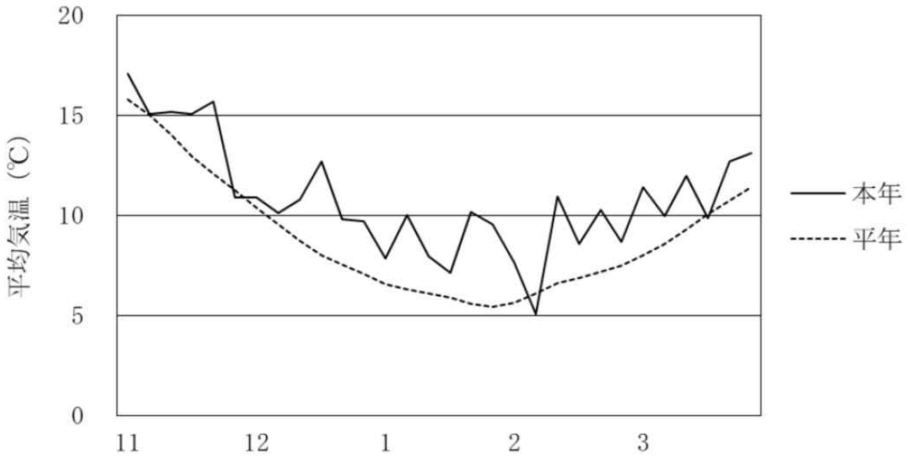
・注意報ほどではないが、多発傾向にある病害虫の情報やトピックを発表

・令和２年 ４月 「イネ　スクミリンゴガイ」
　　　　　 ７月 「イネ　いもち病」
　　　　　 ７月 「イネ・ダイズ　ミナミアオカメムシ」
　　　　　 ９月 「いちご炭疽病」
　　　　　 ９月 「ネギ・キャベツ　シロイチモジヨトウ」
　　　　　 12月 「トマト　葉かび病菌レース2．9」

令和2年度技術情報
イネ　スクミリンゴガイ

・暖冬により越冬量が増加

・本年も発生量多い。



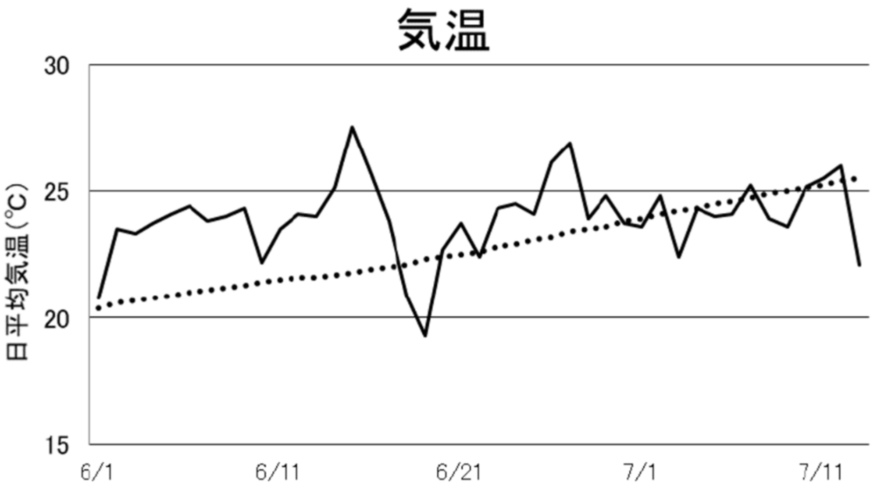
令和元年度冬における半旬ごとの平均気温の推移

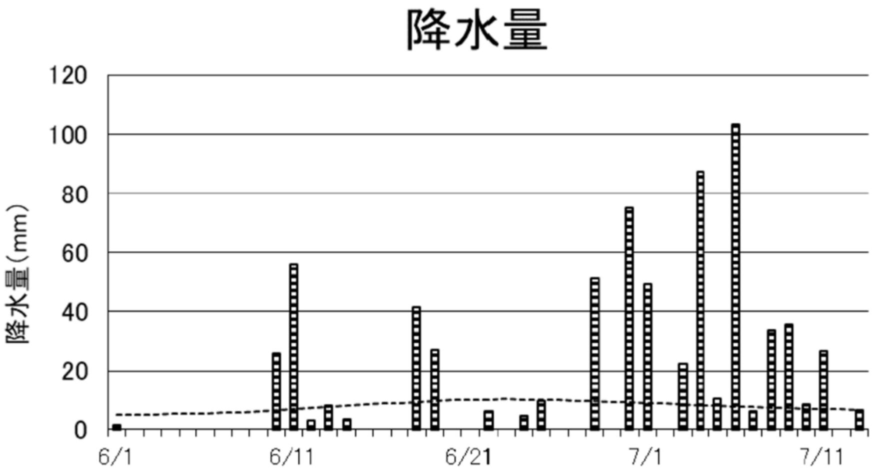
令和元年の県内におけるスクリミリンゴガイの発生ほ場率

発生ほ場率（%）		
	令和元年	平年
6月	37.5	35.9
7月	43.8	34.3
8月	37.5	30.4
9月	23.3	19.6

令和2年度技術情報
イネ　いもち病

葉被害の様子
（上：停止型病斑、下：急性型病斑）

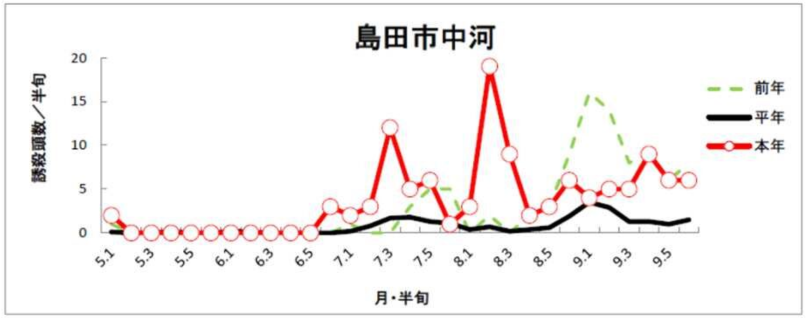


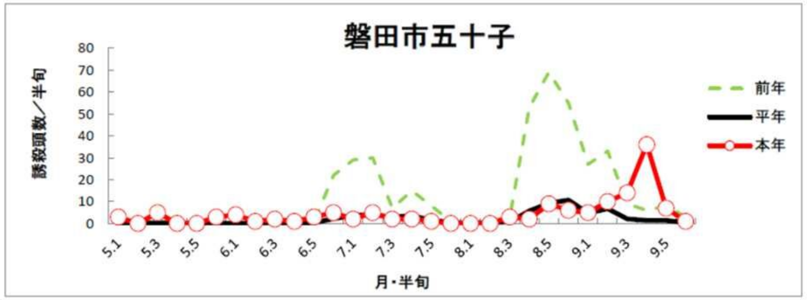


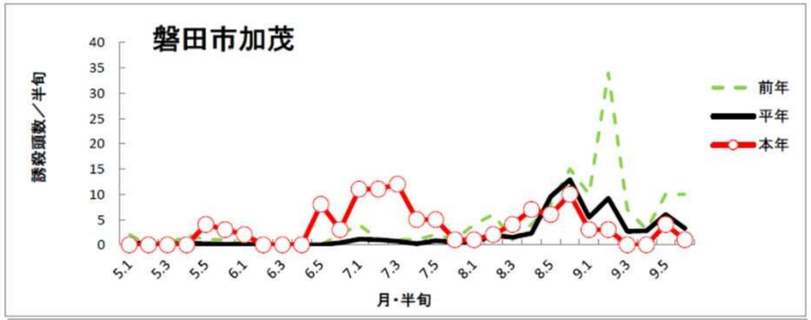
令和2年6～7月の気象概況
（気象庁浜松観測所データより作成）

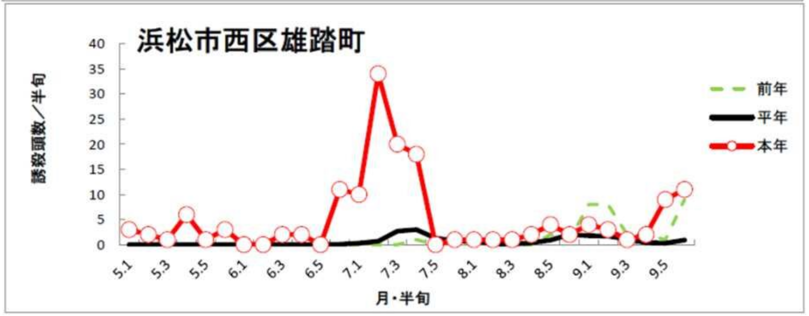
令和2年度技術情報

イネ・ダイズ　ミナミアオカメムシ



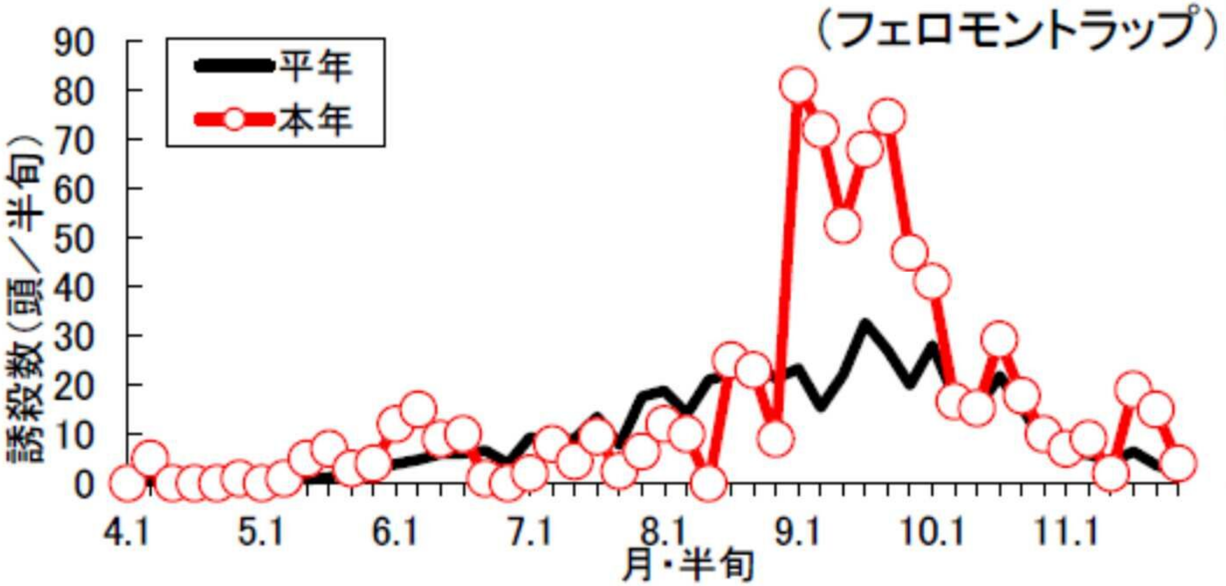






令和2年度技術情報

ネギ　シロイチモジヨトウ



令和2年度技術情報　トマト葉かび病菌レース2.9

・Cf-9を持つ品種を侵すことができるレースは、平成19年度に福島県で初めて発生が確認され、現在までに神奈川県、愛知県、岐阜県など19都県で確認されている。

葉かび病の病徴（左：葉表　右：葉裏）

表１　県内の主力品種が持つ葉かび病抵抗性遺伝子

	品種名	葉かび病抵抗性遺伝子
大玉トマト	桃太郎はるか	なし
	桃太郎ヨーク、桃太郎ファイト	Cf-4
	桃太郎ホープ、桃太郎ピース、桃太郎ヨーク、CF桃太郎ファイト、CF桃太郎ヨーク、CF桃太郎はるか	Cf-9
中玉トマト	フルティカ	Cf-9
ミニトマト	千果	なし
	CF千果、TY千果、CF小鈴、TY小鈴、MKS-T820、小鈴キング、小鈴クイーン	Cf-9

④農薬危害防止
農薬登録における適用作物名に関する注意事項

適用作物外への農薬使用による違反事例が増えています。

下記を参照し、栽培している作物について確認をお願いします。

「農薬の適用病害虫の範囲及び使用方法に係る適用農作物等の名称について」（平成31年3月29日付け30消安第6281号農林水産省消費・安全局農産安全管理課長通知）（最終改正：令和3年1月14日）

https://www.maff.go.jp/j/nouyaku/n_touroku/attach/pdf/index-54.pdf

別紙

表１
適用農作物のうち食用又は飼料用に利用される農作物

※食用及び家畜飼料の両方に利用される農作物

大作物群	中作物群	小作物群	作物名	作物名に含まれる別名、地方名、品種名等の例	備　考（収穫部位等）
果樹類	かんきつ	ー	天草		果実を収穫するもの
			アンコール		
			伊予柑		
			大紅みかん		
			オレンジ	スイートオレンジ、バレンシアオレンジ	
			カーブチー		
			かぼす		
			カラ	カラマンダリン	
			河内晩柑		
			清見		
			きんかん	ニンポウキンカン、マルキンカン	
			グレープフルーツ		

誤認しやすい農作物名

表−２　適用農薬の誤認しやすい作物名の事例

作物名１	作物名２	作物名３
トマト	ミニトマト	
ブロッコリー	茎ブロッコリー	
あさつき	ねぎ	わけぎ
キャベツ	メキャベツ（こもちカンラン）	非結球メキャベツ（プチヴェール）
しゅんぎく	きく	食用ぎく
さくら	食用さくら（葉）	
しょうが	うこん	
えんどう	実えんどう	
いんげんまめ	さやいんげん	
にんにく	葉にんにく	にんにく（花茎）
たまねぎ	葉たまねぎ	
未成熟とうもろこし	ヤングコーン（ベビーコーン）	
しょうが	葉しょうが	

同一作物でも収穫時期や利用部位等が異なる場合

例

- 未成熟の果実を漬物用に使用する子メロン
  → ○「漬物用メロン」または「うり類（漬物用）」
  ×「メロン」（成熟した果実を収穫）

- 「オリーブ」（果実を収穫する）→ 果樹類
  「オリーブ（葉）」（葉を収穫する）→ 野菜類

- 豆類

成熟した種子を収穫するもの	→	野菜類	豆類（種実）
未成熟な種子を収穫、さや付きのままで収穫し、食用に供するもの	→	野菜類	豆類（未成熟）

静岡県病害虫防除所

御不明な点、御意見などありましたら、
下記まで御連絡ください。
静岡県病害虫防除所
TEL：　０５３８－３６－１５４３